

〔研究ノート〕

石垣島におけるナイトタイムエコノミー調査

——営業時間別店舗数によるアプローチ——

長谷川 明 彦

I はじめに

地域の経済活動を測定する方法を列举すると、都道府県単位では地域景気動向指数や県民経済計算、あるいは5年毎の公表になるが地域産業連関表といったものがある。また、市町村単位で把握することのできる調査として、経済センサス基礎調査、経済センサス活動調査などがある。以上の調査から、昼中の産業活動を捕捉することが出来る。

しかし、産業の中でも特に飲食業においては、昼中の時間帯だけでなく、通常の企業が終業後となる時間帯、即ちナイトタイムにおいても、夕食や懇親会などで訪れる者を対象に営業活動が行われる。中でも、石垣島の様な島嶼経済においては、東京や大阪、名古屋の様な都市部と比して娯楽産業も少ないことから、同時時間帯における飲食業は地域経済上大きなウェートを占め、島民のみならず観光者にとっても重要な存在であると思われる。

そこで、本研究では、18時から23時をナイトタイムと考え、営業店舗がどの様に推移するのかを分析することで、経済活動の実態を探ることとした。

II 先行研究

宿泊、日帰り問わず、観光客が立ち寄るスポットに飲食店が有る。郷土料理や伝統料理のみならず、B級グルメやカフェで昼食や夕食を求めて立ち寄る観光者もいれば、休憩で訪れる観光者もいる。そして、「食」を観光資源として

捉え、観光振興に取り組む地域は数多くある。安田(2012)は、地域観光が観光関連事業者のものだけではなく、飲食店をはじめとして、農業者や漁業者、商工業者、更には地域住民のものになることで作り上げられる、フードツーリズムを活かした観光まちづくりの可能性を謳っている。

では、ナイトタイムにおける飲食店は観光資源として捉えても良いのだろうか。ナイトタイムにおける飲食店、つまり居酒屋など、お酒を提供する店は負のイメージが有る。法的にも大正11年に制定された未成年者飲酒禁酒法で満20歳未満の飲酒は禁止されており、厚生労働省のe-ヘルスネットでは「若者の飲酒は中高年と比較して、急性アルコール中毒やアルコール依存症等のリスクが高くなり、事件・事故の関連も強く見られる」と、その危険性に触れられている。しかし、満二十歳未満の禁止は当然のことではあるが、合法的な年齢層、つまりは大人に対して、地域で夜間にお店が開業し、飲食提供サービスが行われることには問題が無く、植田(2017)は「他人に害を及ぼす恐れが高い喫煙と異なり、飲酒は個人的嗜好が極めて強く、他人に害を及ぼさなければ認められる、健全なナイト・エンタテインメントに位置づけられる」としている。

こうしたナイト・エンタテインメントである夜間営業をしている飲食店に注目し、観光PRを進めている自治体もある。例えば、愛知県常滑市では、2020年3月に「常滑グルメ・ナイトマップ」を作成した。和食・洋食・中華と種類別に分けてお店が記載されたグルメ・マップで

は「夜でも楽しめるさまざまなグルメが集まっています。一日を締めくくる自分にピッタリな場所を見つけてみませんか」と、常滑グルメが紹介されている。

常滑グルメ・マップなどを作成する場合、お店の位置情報が必要となる。住所から緯度・経度を調べて地図に印を打っていくのは大変な作業であったが、現在は飲食店やホテルなど位置情報を提供するサービスも登場し、確認作業が容易になってきた。

一円・梶・河口(2013)は、その研究においてHOT PEPPER、ぐるなび、食べログの3つの位置情報サービスから名古屋駅を中心とした半径1km(食べログは仕様上1.5km)の範囲内に含まれる飲食店情報を分析している。その結果、HOT PEPPERとぐるなびは飲食店側が情報提供する運営形式であることから、重複した情報が多いということを明らかにしている。

Ⅲ 研究方法

1. データ収集方法

本研究では、石垣島の飲食店の営業が時間の推移とともに変化する様子を捉えることで、18時から23時のナイトタイムにおける活動状況を捉えることを目的とした。

そのため、島内に点在する店舗に関する情報を収集することが必要となる。こうした情報はPOI(Point Of Interest)情報と呼ばれるもので、「興味を持った特定の場所」に属するデータを意味している。

具体的には、観光名所や消火栓、自動販売機などの位置情報が存在し、Google Places¹⁾やHOT PEPPER²⁾、Yahoo!ローカルリサーチAPI³⁾などがPOI情報提供サービスを実施しており、各サービスが定めたURLパラメータに取得したい情報の値を設定することで、求める場所の属性情報を得ることが出来る。

本研究では、ぐるなび⁴⁾が提供する「レストラン検索API」を利用し、freeword=“石垣市”でヒットした店舗の属性データを分析の対象と

した。なお、データはJSON形式で提供され、1回あたりの取得件数の上限が100件であることから、複数回のリクエスト処理を行うことで、必要とするデータの取得を行った。

2. 分析方法

レストラン検索APIにより抽出した属性データは店舗名称(name)、緯度(latitude)、経度(longitude)、営業時間(opentime)である。このうち、営業時間データを用いて、18時以降、1時間単位で営業店を区分し、緯度及び経度データを用いて地図上に可視化し、その変化を捉えることとした。

また、ぐるなび掲載情報として全ての店舗で営業時間が公表されているわけではないことから、それらの店舗については、「営業時間非公表店舗」として区別することとした。

Ⅳ 分析結果

1. 18時台の営業店舗点在状況

レストラン検索APIにより店舗データを抽出したデータは、Python⁵⁾を利用してOpen Street Map⁶⁾で一時間毎の可視化を試みた。尚、本図において、営業時間非公表の店舗は外すこととした。

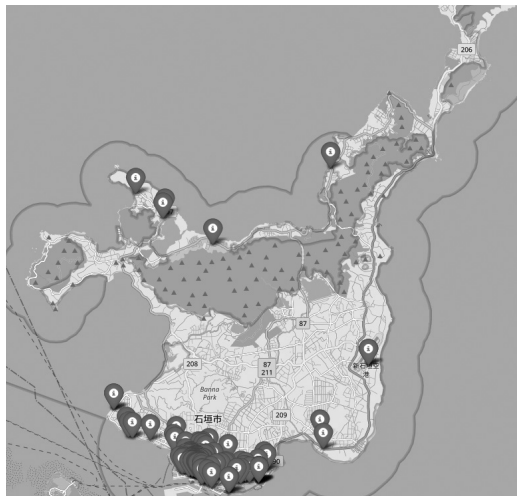


図-1 18時台の営業店舗

18時台の営業店舗を調べてみると、図-1の通り、島の南東部で数多くの店舗が営業を行っている。南東部は石垣市における中心街であり、この周辺を中心に、島の北側にも営業をする飲食店が点在していることが分かった。

また、北側地域には石垣島を代表する景勝地の川平湾、遠浅で波の穏やかな海が広がる底地ビーチが在り、地元民のみならず観光者も多く訪れることから、同時帯に営業している飲食店が存在していると考えられる。

この他、数は少ないものの、島の北東部及び南東部にも営業店舗が点在していることが分かる。

2. 22時台の営業店舗点在状況

しかし、22時を過ぎると状況が異なってくる。市街地では、依然として数多くの飲食店で営業を続けているところがある一方で、島の北東部及び北側では、営業を続けている店舗が見られなくなった。



図-2 22時台の営業店舗

3. 夜間非営業店舗

点在状況データを精査していると、営業時間が昼間のみで夜間営業を行っていない飲食店が32店舗あることが分かった。また、当該飲食店は、島の北側のみならず、北東部にもある程度数が存在することが分かった。



図-3 夜間非営業店舗

4. 島内店舗営業状況

レストラン検索APIによりfreeword=“石垣市”で抽出できた店舗は全部で518件であった。そのうち、営業時間が公表されていた店舗は194件、非公表の店舗は317店舗であった。

そこで、公表している店舗を母数に18時台以降の営業店舗比率を割り出すと、図-4の様に21時台までは7割を超えていたものの、22時台には5割程度になり、23時台になると、3割台にまで下がり、全店舗比では14%にまで落ち込むことが明らかとなった。

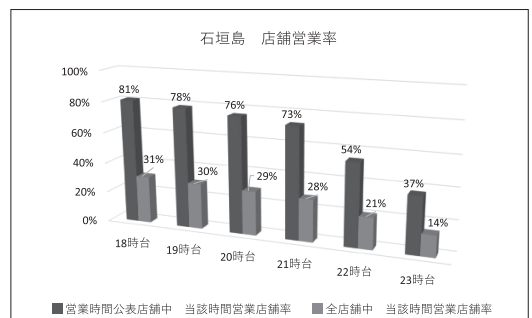


図-4 石垣島 店舗営業率

V 考察

本研究では、ぐるなび提供のレストラン検索

APIから抽出したデータを用いて、石垣島の飲食店舗の営業状況を測定し、18時から23時台のナイトタイムにおける経済活動を探った。23時台となっても、東南エリアの市街地では意外と営業している店舗が散見されたものの、景勝地が点在する島の北側では、22時を境に営業店舗が無くなるのが分かった。外側を海に囲まれた閉鎖的な空間であり、他の地域よりもコンパクトシティが形成されている点が飲食店営業状況から把握することができた。

VI おわりに

本分析は2020年3月時点でのデータを基に分析を行ったものである。首都圏や大阪など本土の大都市で新型コロナウイルスが猛威を振るっている最中、石垣市では感染者ゼロの環境を好機と捉え、積極的に観光客誘致を図っていた。

ところが、同年4月13日に沖縄県より八重山地域初となる20代と60代の2名の感染者が発表されると医療体制の脆弱な同地域の危機感は一気に膨らんだ。

市内では感染症病床を備えた医療機関は2つしか存在せず、感染者用ベッドは9床しか存在しなく、観光者は勿論のこと、島民も適切な医療を受けることが難しいという安全・安心の課題を抱えている。

新型コロナウイルス感染拡大の影響が、島内飲食店にどの程度の影響を及ぼすことになるの

か、今後分析を進めていくこととする。

注

- 1) Googleが提供するAPI内で施設、地理的位置、有名なスポットとして定義されている場所の情報を取得できるサービス。
- 2) リクルートが提供するホットペッパーグルメに掲載されている店舗情報が取得できるサービス。
- 3) ヤフー株式会社が提供する店舗、イベント、クチコミ情報などの地域・拠点情報が取得できるサービス。
- 4) 株式会社ぐるなびは、飲食店の情報を集めたウェブサイトを運営する企業であり、同社のレストラン検索APIでは、ぐるなびに掲載される飲食店の住所・緯度経度情報をはじめ、営業時間などの情報を取得することができる。
- 5) 1991年に開発されたプログラミング言語。
- 6) 2004年に英国で発祥のプロジェクトで、自由に利用・編集できる地理空間情報。

参考文献

- 一円真治、梶克彦、河口信夫「POI情報統合プラットフォームの提案」、情報処理学会『マルチメディア、分散協調とモバイルシンポジウム2013論文集』、pp.1405-1412
- 植田康孝「ナイト・エンタテインメント概説(1) 飲酒：居酒屋からオンライン飲み会への変遷と酒種ロングテール化」、『江戸川大学紀要(No.28)』、2018、pp.85-105
- 安田亘宏「フードツーリズムと観光まちづくりの地域マーケティングによる考察」、法政大学地域研究センター『地域イノベーション(No.4)』、2012、pp.23-33

(2020年7月3日掲載決定)